

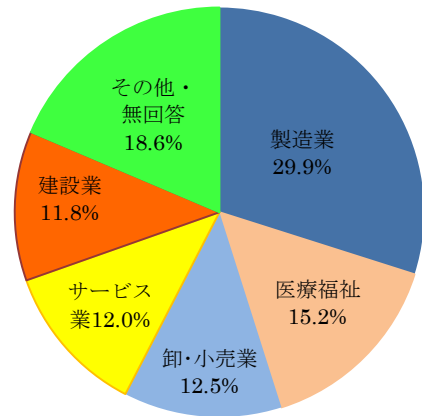
兵庫県立大学経営学部・ひょうご仕事と生活センター共同研究
ひょうご仕事と生活の調和推進宣言企業調査 結果概要

1 調査概要について

- (1) 調査テーマ「企業における女性活躍推進及びワーク・ライフ・バランスに関する実態調査」
- (2) 調査対象者：ひょうご仕事と生活の推進企業宣言企業 1,258 社
(回答者は、企業の経営層・人事労務責任者)
- (3) 調査期間：平成 28 年 10 月 15 日～31 日
- (4) 調査方法：調査票郵送、着払封筒にて返送
- (5) 回答件数：415 社（回収率 33%）

【回答企業の業種】

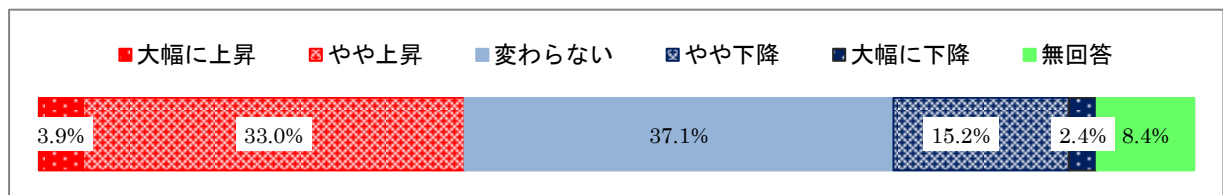
業種	回答数	%
製造業	124	29.9%
医療福祉	63	15.2%
卸売業・小売業	52	12.5%
サービス業	50	12.0%
建設業	49	11.8%
その他・無回答	77	18.6%
計	415	100%



【回答企業の業績：過去3年間での企業業績の傾向】

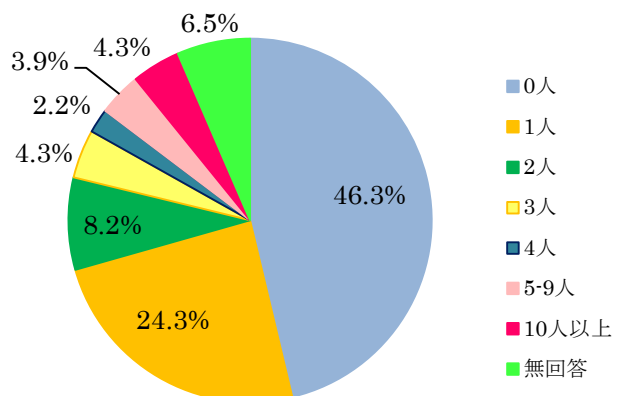
上昇しているが 36.9%、下降しているは約半分の 17.6%

n = 415



【回答企業の育児休業取得状況】

約半数は育児休業取得者がゼロ。
10人以上取得している企業は 4.3%

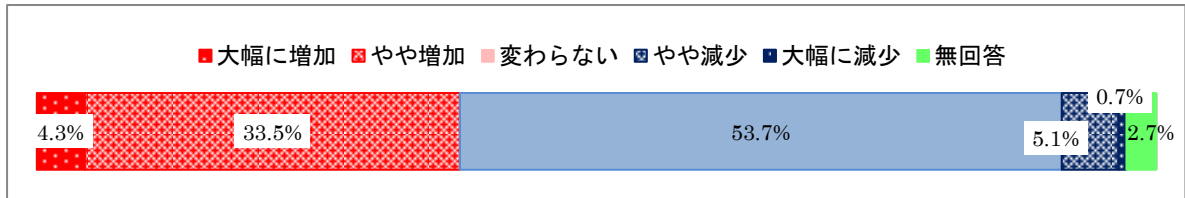


2 女性活躍推進の取組について

問1 5年前と比較すると従業員における女性の割合はどのように変化しているかお答えください。

37.8%の企業で女性従業員が増加。減少は5.8%。

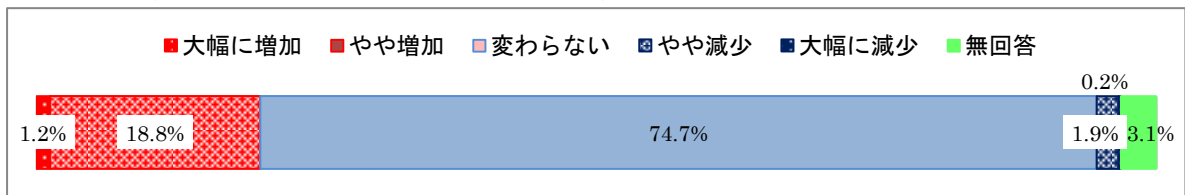
n = 415



問2 5年前と比較すると役職者(部長以上クラス、役員を含む)における女性の割合はどのように変化しているかお答えください。

n = 415

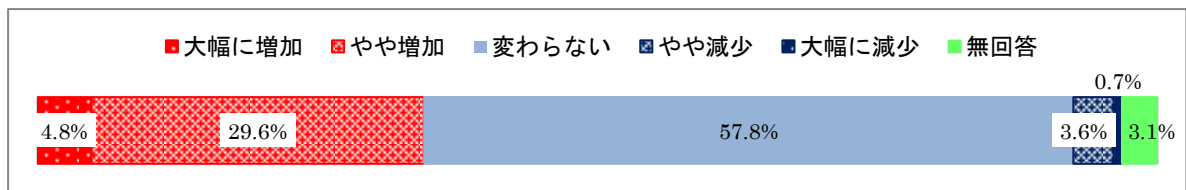
役職者の増加は20.0%で、問1の従業員の増加割合と比べると少ない。減少は2.1%。



問3 5年前と比較すると新規採用者における女性の割合はどのように変化しているかお答えください。

34.4%の企業で女性の採用が増加。減少は4.3%。

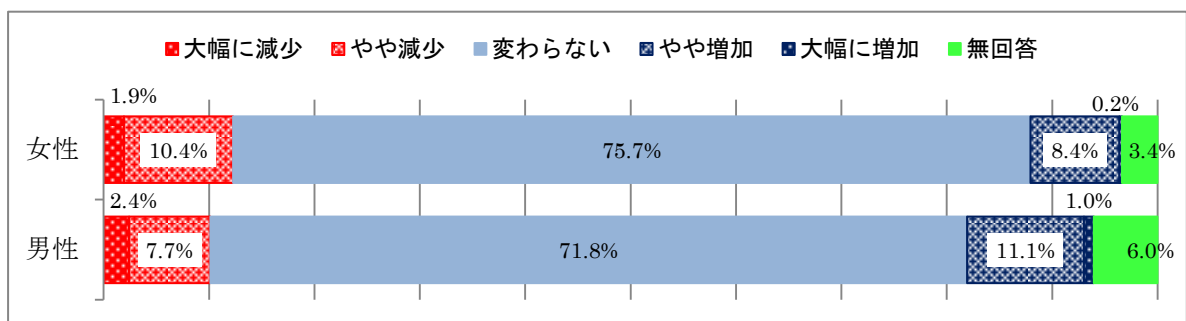
n = 415



問4 5年前と比較すると女性及び男性従業員の離職率はどのように変化しているかお答えください。

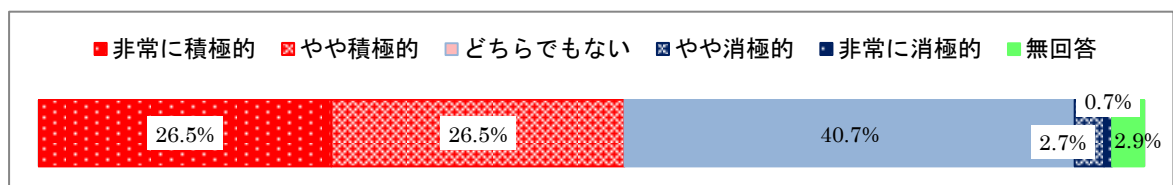
離職率減少は女性の方が2.2%多く、増加は男性の方が3.5%多い。

n = 415

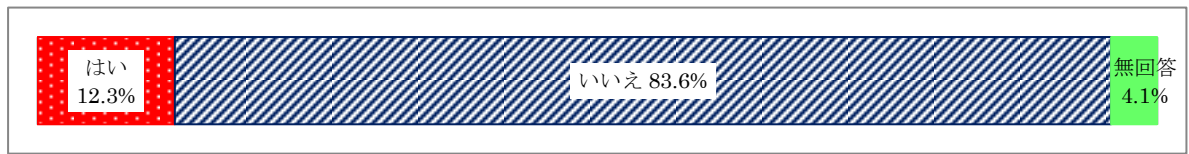


問5-1 女性の採用には積極的ですか

半数以上の企業(53%)が女性の採用に積極的。消極的はわずか3.4%。

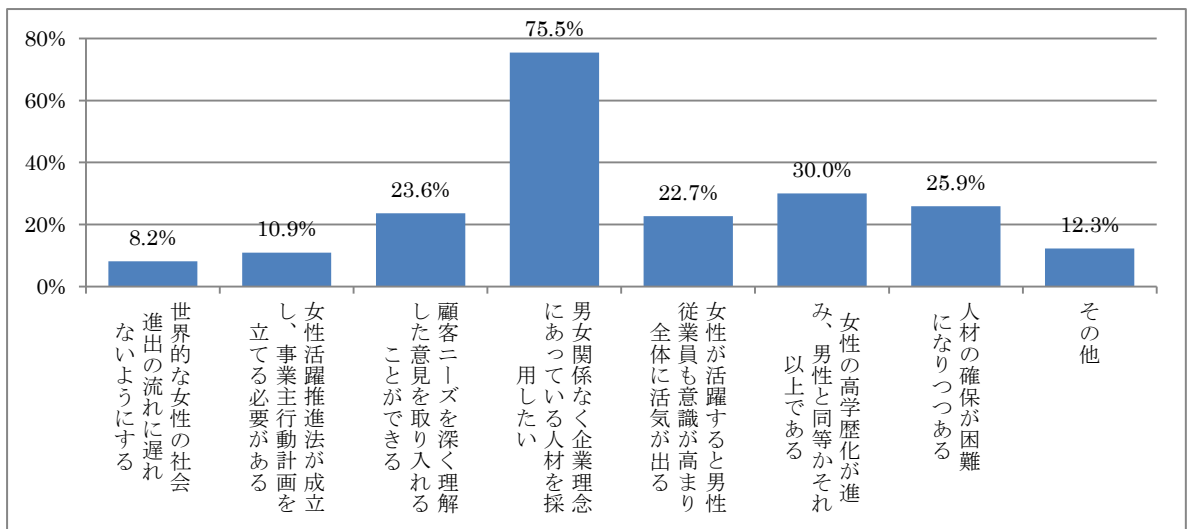


問5-2 問5-1で「非常に積極的」「やや積極的」を選択した方へ、新卒採用に当たり男女比の明確な目標設定を行っていますか。 n=220



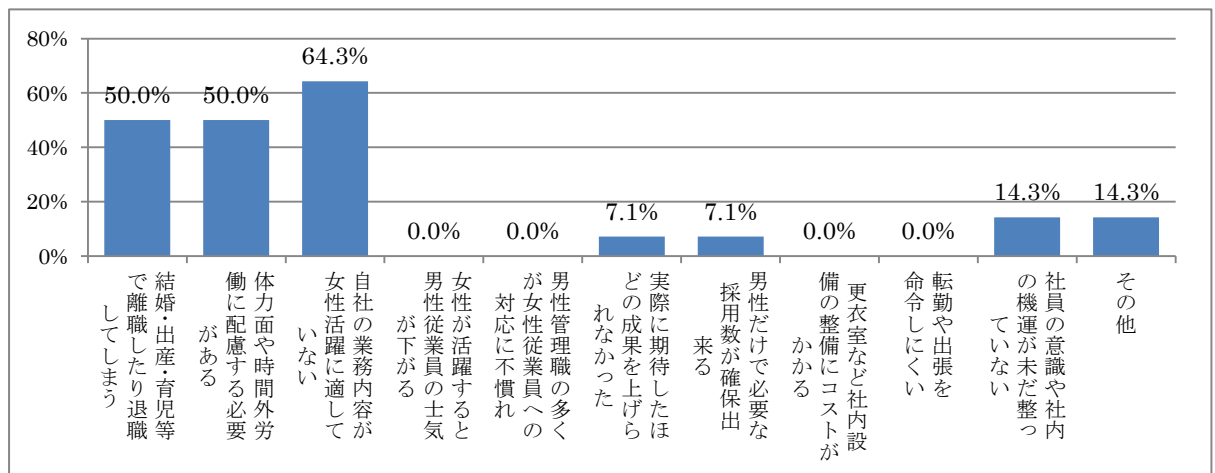
問5-3 問5-1で「非常に積極的」「やや積極的」を選択した方へ、女性採用に積極的な理由について、当てはまるものすべてに○をつけてください。 n=220

「男女関係なく企業理念にあっている人材を採用したい」が75.5%で一番多い。

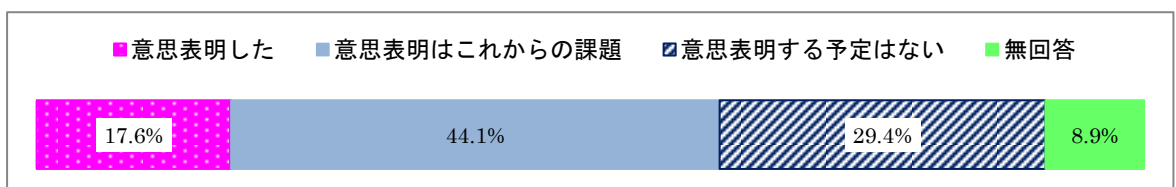


問5-4 問5-1で「非常に消極的」「やや消極的」を選択した方へ、女性採用に積極的でない理由について、当てはまるものすべてに○をつけてください。 n=14

消極的な理由は、業務内容や結婚・出産・育児、体力面、時間外労働の配慮をあげる企業が多い。



問6 貴社の経営層はトップダウンで女性活躍推進についての意思表示をしましたか。 n=415

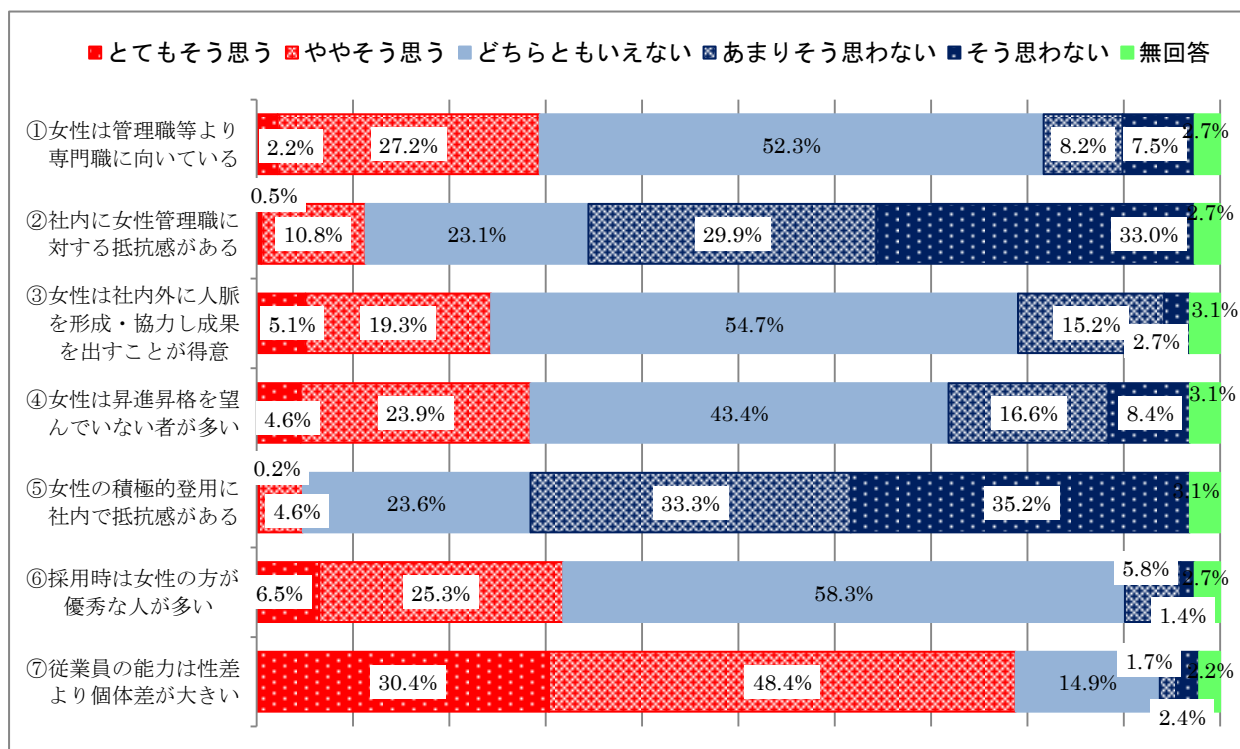


問7 女性従業員に対する考え方について、貴社の考えに近いものを選び○をつけてください。

78.8%の企業が、「従業員の能力は男女の性差より個体差が大きい」と回答。

また、7割近くが、女性管理職や女性の積極的登用に抵抗感がない。

n = 415

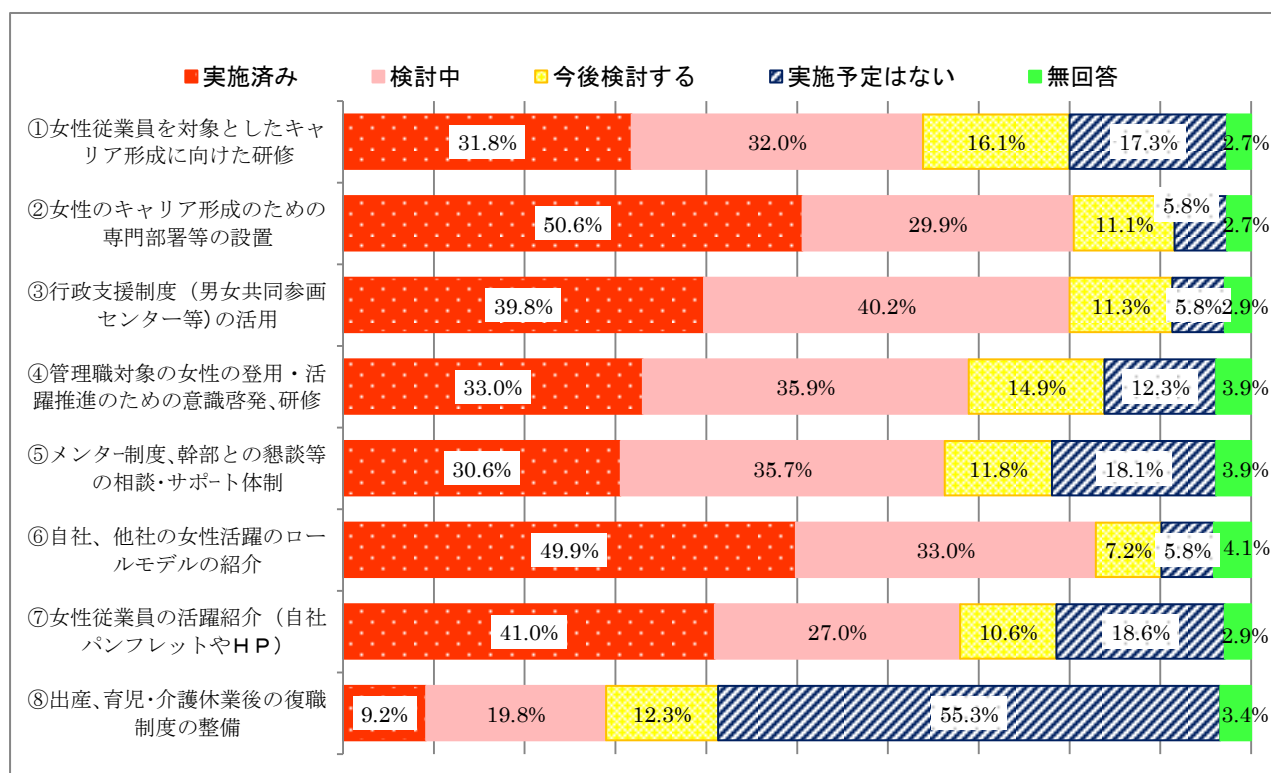


問8 女性従業員のキャリア形成に関わる以下の取組について、実施状況をお答えください。

約半数の企業が、「女性のキャリア形成のための専門部所等の設置」「自社、他社の女性活躍のロールモデルの紹介」を実施。

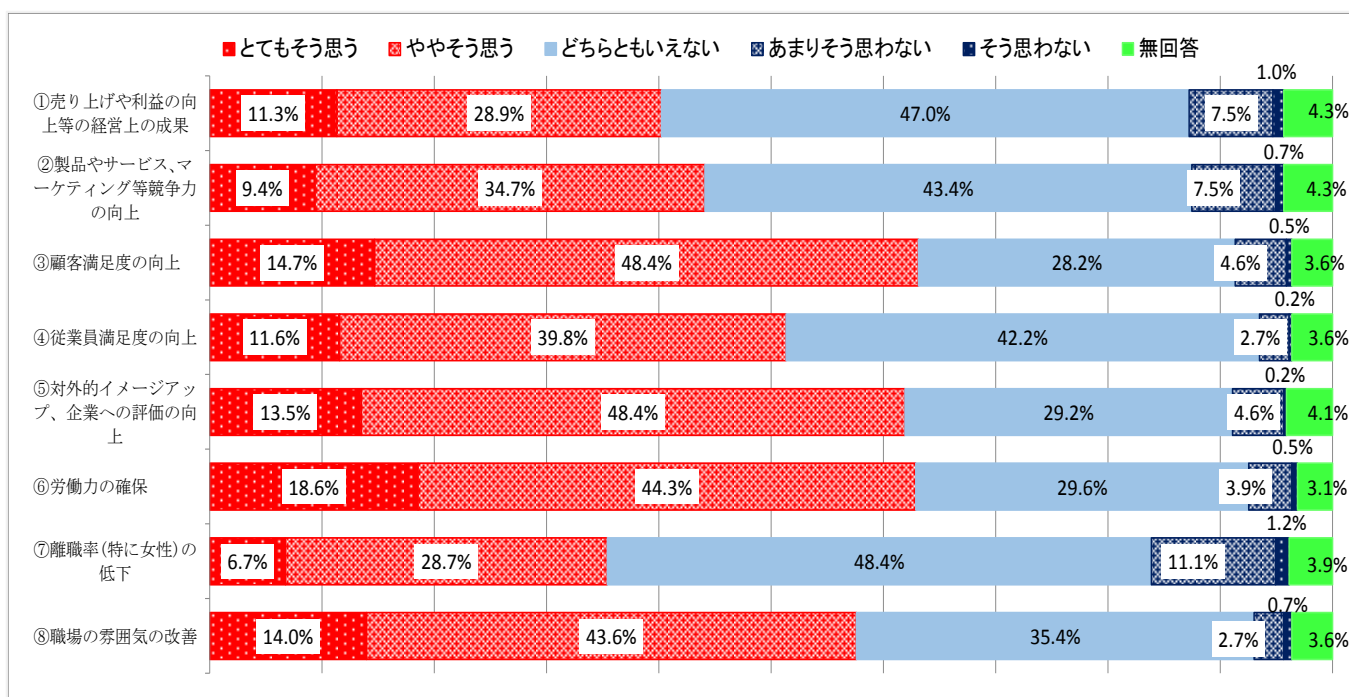
「出産、育児・介護休業後の復職制度の整備」に取り組んでいるのは1割以下。

n = 415



問9 貴社では、女性の能力を活用することによる、経営に関するメリットをどうお考えですか。以下の項目について該当するものに○をつけてください。

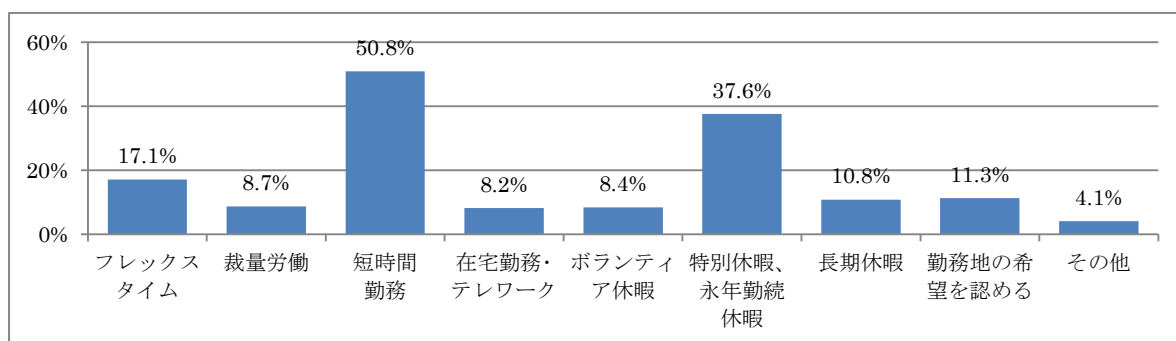
6割以上の企業が女性活用のメリットとして、顧客満足度・イメージアップ・企業への評価の向上や労働力の確保をあげている。 n=415



3 労働時間に関する制度と女性活躍推進について

問10 貴社では、多様な働き方に関する以下の制度を設けていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。 n=415

半数超の企業が短時間勤務制度を導入。特別休暇、永年勤続休暇制度は37.6%。



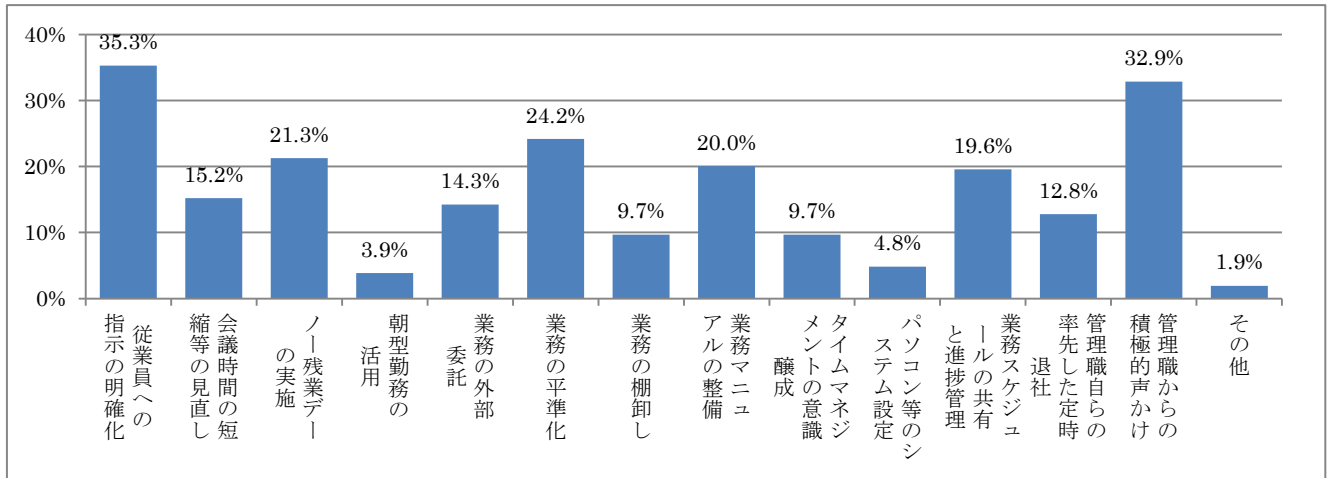
問11 貴社では従業員が長時間労働している実態がありますか。 n=415



問11-2 貴社では長時間労働を是正する工夫を行っていますか。 n=415



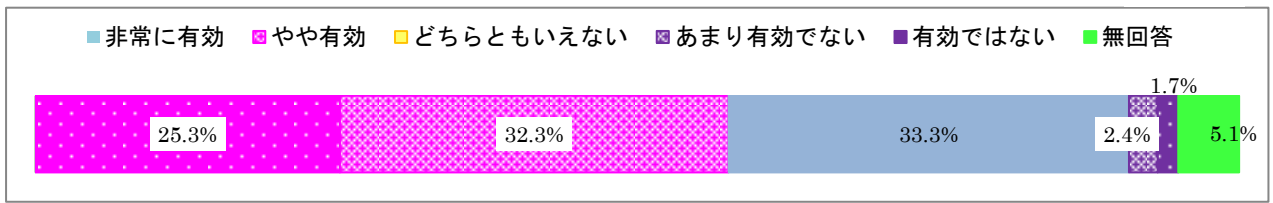
問 11-3 「問 11-2」で「はい」を選択した方へ、具体的にどのような工夫をしていますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。 n = 302
従業員への指示の明確化が 35.3%、次いで管理職からの積極的声かけが 32.9%。



問 12-1 長時間労働の是正は女性活躍推進に有効だとお考えですか。

57.6%の企業が有効だと回答。

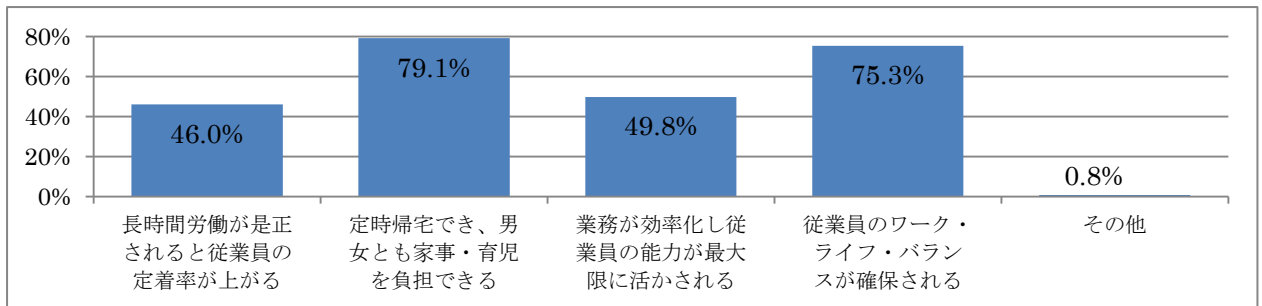
n = 415



問 12-2 「問 12-1」で「非常に・やや有効」を選択した方へ、女性活躍推進に有効である理由として当てはまるものすべてに○をつけてください。

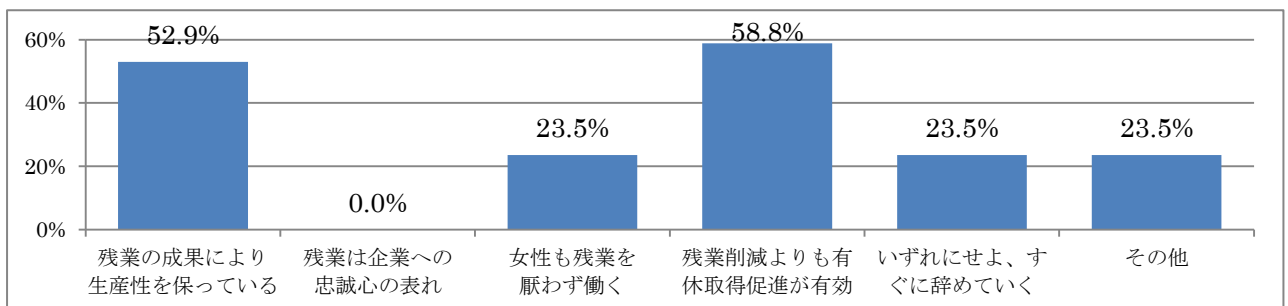
「男女ともに家事・育児を負担できる」が 79.1%で一番多く、次いで「ワーク・ライフ・バランスが確保される」が 75.3%となっている。

n = 239



問 12-3 「問 12-1」で「有効でない・あまり有効でない」を選択した方へ、女性活躍推進に有効でない理由として当てはまるものすべてに○をつけてください。

n = 17



問 13 貴社では、以下の項目についてどの程度当てはまるとお考えでしょうか。該当するものに○をつけてください。

残業時間の多い従業員が評価される、育児休業取得は昇任・昇格不利と考えている企業は少ない。

n = 415

